

事業計画書（実績書）

令和4年1月14日

団体名 古代米復活プロジェクト

事業の目的	古代米の作り手が高齢になり田んぼの保全管理が出来なくなった。 希少な古代米の種を残すため、耕作を放棄することなく地元と都市住民の交流の場にして、田植えから稲刈りなどの体験イベントとする。更に古代米を使った料理講習会も行い、栄養価の高い古代米の良さや、白米と古代米の違いなど特徴を学んでもらう。
事業の名称	古代米の田植えから収穫体験と料理講習会
事業費 (市補助金)	115,117 円 ( 100,000 円)
補助金の使途	田植え体験と稲刈り体験イベントやそれに係る広告宣伝費など
事業の実施期日	2021.4~2021.12.31 .28
事業の実施場所	下替地町 四方洋一宅の田んぼ
事業の概要	<p>2021.4 苗作り、田すき、草刈りなど田植え準備</p> <p>2021.5 コロナ緊急事態宣言中で、イベントの広報はせず、地元民参加で田植え実施</p> <p>2021.6 両丹支援学校の生徒がバケツ稲で田植え体験に参加 草取りと、残っていた苗で一部都市住民が田植え体験に参加 草取りと、草刈りの継続作業(6月~10月の期間実施)</p> <p>2021.9 稲刈り体験募集チラシ作成と新聞広告掲載 (2021.9.27)</p> <p>2021.10.9 稲刈り体験と料理講習会</p> <p>2021.10 刈取った古代米はもみで自然乾燥</p> <p>2021.12 精米した古代米を参加者に一人500g渡した</p> <p style="text-align: right;">参加人数 21名</p>
補助金の効果(成果)	<p>作り手が高齢で田んぼの保全が困難になったが、体験イベントを通し地元住民の理解と協力で耕作を放棄することなく田植えを実施、都市住民との交流も行えた。又通常の田植えイベントに加え、支援学校の生徒(5名+教諭)向けにバケツ稲(資料アリ)を実施。他の参加者も各自バケツ稲を持ち帰り、田んぼ、自宅、学校とそれぞれが身近な所で生長過程が観察できました。料理講習も竹の器を製作し、古代米を使っていなり寿司を皆で味わった。3か所で育てた古代米は収穫後一か所に集め、自然乾燥して脱穀12月に参加者全員に配った。参加者の声:次の機会には子供、孫も連れて是非参加したい。古代米は知らない人が多く、近所に配ったら喜ばれた。お正月に丁度赤飯として使えて良かった。</p>

様式第4号 (第3条及び第7条関係)

収支予算書 (計算書)

令和4年 1月 14日

団体名 古代米復活プロジェクト

(単位:円)

収入の部	区分	予算額	収入済額	明細
		市補助金	109000	100,000
	参加料	5220	2,000	
	自主財源	8410	13,117	
	合計	119,410	115,117	
支出の部	区分	予算額	支出済額	明細
	諸費	25,000	25,000	① 草刈機レンタル代 5,000円×5台
		11,950	11,639	② 消耗品 草刈機歯、手鎌、マスク アルコール、非接触温度計
		6000	3,000	③ 会場使用料
		20600	23,250	④ 広告宣伝費 ○あやべ市民新聞 8,250円 ○チラシ作成費 15,000円 チラシ3,000円(830×100枚) デザイン制作12,000円
		10,000	7,470	⑤ 料理講習材料費4,470円 竹の食器作製費3,000円
		1800	1,800	⑥ ボランティア保険1,500円 福祉行事保険 300円
	備品購入費	28,060	42,958	⑦ バッテリー付き電柵
	合計	119,410	115,117	
	差引	0	0	